

下川町で伐採・造林一貫システムの 講演会と現地検討会を開催

日時：平成 26 年 9 月 26 日（金）13:00～17:00

会場：下川町総合福祉センター（講演会）、下川町町有林（現地検討会）

主催：森林総合研究所北海道支所、下川町

内容：

北海道支所は、下川町および下川町ふるさと開発振興公社と共同で、農林水産省の研究開発事業「先進機械を活用した伐採・造林一貫システムによる低コスト人工林管理技術の開発（H25～27）」を行っています。この事業は、トドマツ、カラマツ等の道産樹種の素材生産と、再造林とを一貫したシステムとして作り上げ、低コストで効率の良い北海道型林業を目指すものです。

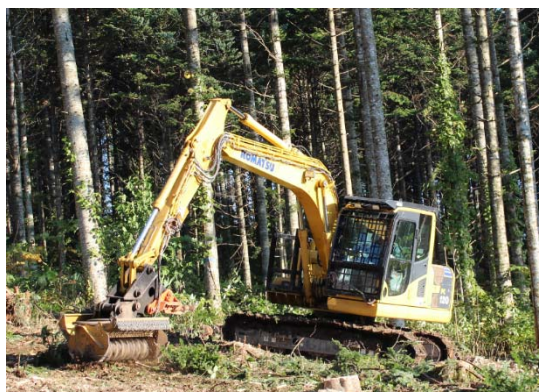
本年は事業の中間年に当たります。そこで道内の林業関係の方々に、事業の意義と進捗状況をお知らせするための講演会と現地検討会を行いました。研究機関、行政機関、事業体、指導林家の方など、あわせて 80 名ほどの方にご参加頂きました。

初めに、スギを対象とした一貫システムの先進地域である九州の事例について、中村松三氏（日本森林技術協会主任研究員）による講演会が行われ、一貫システムの意義や留意点について理解を深めていただきました。

現地検討会では、本事業の目標とする、「ハーベスタによるトドマツ伐採→フォワーダによる集材→クラッシャ地拵→コンテナ苗（カラマツ）の低密度植栽」という一連のシステムについて、実際の機械を用いたデモンストレーションを行いました。とくに、クラッシャ（破碎機）を林業に用いるのは国内では珍しいとあって、会場の興味を引いていました。一貫システムのイメージを具体的に知って頂けたことで、有意義な検討会となりました。



中村松三氏による講演会



クラッシャによる地拵